

# 令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

## 事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 埼玉県 】

学校名【 県立羽生第一高等学校 】

1 実践テーマ	① ・ II ・ III ・ IV ・ V（複数選択可）
2 実施対象者 （学年・人数）	全校生徒（1～3年生526人の一部）
3 展開の形式	<p>（1）学校における活動</p> <p>① 教科名（                      ）</p> <p>② 行事名（                      ）</p> <p>③ その他（NIE                ）</p> <p>（2）地域における活動</p> <p>① イベント名（                    ）</p> <p>② その他（                      ）</p>
4 目標 （ねらい）	新聞を読んで、オリンピック・パラリンピックについて考える。
5 取組内容	新聞を読み、オリンピック・パラリンピックで興味を持った記事について、考えや感想等をワークシートにまとめ、新聞コンクールに応募する。
6 主な成果	<p>オリンピック・パラリンピックの開催について賛否両論ある中で、多角的な視野からのものの見方を養うことができた。無観客など競技以外の部分が新聞に取り上げられることも多く、生徒もそうした面について取り上げていた。</p> <p>パラリンピックで女子100メートル背泳ぎ（運動機能障害）で14歳の山田美幸選手が銀メダルを獲得し、パラ日本勢で史上最年少のメダリストとなった記事は複数の生徒が取り上げていた。</p> <p>「自分も山田選手のように人に感謝できるようになりたい。」</p> <p>「最後まで全力で泳いでいる姿に勇気をもらった。」などの感想が書かれていた。</p>
7 実践において工夫した点 （事業の特色）	生徒の価値観を尊重するようにした。
8 主な課題等	今回は新型コロナウイルス感染症の関係で、オリンピック・パラリンピックについても賛否両論ある中での指導になった。多様な価値観を尊重するようにした。

9来年度以降の 実施予定	新型コロナウイルス感染症が落ち着いた後、オリンピック・パラリンピックについて再度考えさせる機会を持つことができるとよいと思う。
-----------------	---

# 令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

## 事業実施報告書

- |     |                                    |
|-----|------------------------------------|
| I   | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び   |
| II  | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成           |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築        |
| IV  | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V   | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成      |

道府県・政令市名【 埼玉県 】

学校名【 県立羽生第一高等学校 】

1 実践テーマ	I ・ II ・ III ・ IV ・ <b>V</b> （複数選択可）
2 実施対象者 (学年・人数)	全校生徒 1, 2, 3学年 522名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（総合的な探究の時間） ② 行事名（ ） ③ その他（ ） (2) 地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目標 (ねらい)	トップアスリートの生の声を聴くことで、競技そのものの知識を学ぶだけでなく、努力し、挑戦することの大切さを感じ、今後の生き方に生かしていけるようにする。また、スポーツの価値を理解し、生涯にわたって楽しむ心を育てる。
5 取組内容	オリンピックアスリートによる講演会 1 育てる力 自己肯定力・傾聴力・行動力 2 期日 令和3年11月30日（火） 3 講師 元バレーボール女子日本代表選手 迫田さおり氏 4 演題 「心をみがいてくれた人との出会い」 Zoom ウェビナーによるリモート講演 5 内容 ・「バレーボール」について ・「頑張っていたら必ず見てくれる人がいる。」 ・「助けてくれる人もいる。」 ・「ひとりで抱え込み過ぎない」こと。 等 代表生徒からの質問・回答 代表生徒からのお礼の言葉

	
<p>6 主な成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「迫田さんの『スポーツを通して人と人とをつなぐことができる。』という言葉から、スポーツのすばらしさをあらためて感じることができた。」等、スポーツそのものの意義を見直すことができた。</li> <li>・「『ひとりでは無理なことも周りの支えでできることもある。』という迫田さんのお話を聞いて、自分自身が努力するとともに、周りの人たちへの感謝の気持ちを忘れずに過ごしていきたいと思った。」等、周囲の人への感謝の気持ちを持つことの大切さに気付くことができた。</li> <li>・「『努力は必ず報われる』という言葉をもとに勉強や部活動等に生かしていきたい。」等、努力することの大切さを改めて感じることができた。</li> <li>・「スポーツに限らず、何事にも前向きに、あきらめずに取り組んでいきたい」等、これからの高校生活に対して肯定的な考え方を持つことができた。</li> <li>・笑顔を絶やさず、講演や質問への回答をしてくださった迫田氏を見習いたいとの感想もあった。</li> </ul>
<p>7実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症感染予防の観点からオンラインでの実施とした。(Zoom、タブレット、プロジェクタ利用)</li> <li>・講演者への質問は事前に送付、質問者は本部に待機してもらうことで、流れがスムーズになるようにした。</li> <li>・本校にある部活動の種目を考えて講演者を選び、生徒が身近に感じられるようにした。</li> <li>・事前打ち合わせ、リハーサルを入念に行い、当日の流れがスムーズになるようにした。</li> </ul>

8 主な課題等	・Zoom ウェビナーを通しての講演会だった。対面であればよりいっそう臨場感を得られたのではないかと思う。
9 来年度以降の 実施予定	現段階では未定。

# 令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

## 事業実施報告書

- |     |                                    |
|-----|------------------------------------|
| I   | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び   |
| II  | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成           |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築        |
| IV  | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V   | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成      |

道府県・政令市名【 埼玉県 】

学校名【 県立羽生第一高等学校 】

1 実践テーマ	①・Ⅱ・④・⑤・Ⅴ（複数選択可）
2 実施対象者 (学年・人数)	1, 2年生の参加を希望する部活動の生徒  1, 2学年 59名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 ( ) ② 行事名 ( パラドリームアスリート体験型講演会 ) ③ その他 ( ) (2) 地域における活動 ① イベント名 ( ) ② その他 ( )
4 目標 (ねらい)	・パラアスリートから「ゴールボール」について学び、共に体験することで、パラスポーツへの理解を深める。 ・視覚障害者スポーツである「ゴールボール」を通して、コミュニケーションの在り方について学び、共生社会について考える。
5 取組内容	埼玉パラドリームアスリート体験型講演会 1 育てる力 自己肯定力・傾聴力・行動力 2 期日 令和3年12月14日(火) 3 講師 埼玉ゴールボールクラブ 安達 阿記子 氏 佐藤 アキナ 氏 江黒 直樹 氏 武田 直子 氏  4 内容 ・ゴールボールについて ・アイマスク体験 ・ゴールボール体験 等 代表生徒からのお礼の言葉

	
<p>6 主な成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パラリンピック競技である「ゴールボール」を体験することで「ゴールボール」に対する興味・関心が深まった。</li> <li>・障害者スポーツを共に楽しむことができた。</li> <li>・目が見えない状況でもスポーツをする姿はかっこいい等、障害者スポーツを肯定的に捉えるようになった。</li> <li>・目が不自由な人がいて困っていたら助けたいと思った等、障害者への理解が深まった。</li> <li>・「ゴールボール」ではパスをする際に、声をかけ合うことが大事である。互いの存在を認め合い、大事にすることの必要性を感じた。普段のコミュニケーションの在り方についても考えることができた。</li> <li>・パラスポーツを体験することで、障害者スポーツやパラリンピックさらに障害者への関心が高まった。</li> </ul>
<p>7実践において工夫した点(事業の特色)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症感染予防の観点から、体験の仕方について配慮した。また、集合写真撮影の実施も見送った。</li> <li>・体験型のため、希望者による実施とした。</li> <li>・体験の時間を多くとり、「ゴールボール」を実感してもらえるようにした。</li> </ul>
<p>8主な課題等</p>	<p>予算と時間の確保</p>
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<p>現段階では未定</p>